

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善傾向に加え、原油価格の下落や円安の影響もあり、個人消費においても回復基調が見え始めております。その一方では、欧州をはじめとする海外景気の下振れが懸念されており本格的な景気回復に向けての先行きは依然として不透明であります。

当社グループが位置する印刷・広告業界につきましては、インターネット広告は好調であるものの、他の媒体による広告宣伝費の削減は続いております。加えて、業界他社との競争激化の影響もあり厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、神奈川県伊勢原市に商業印刷及び年賀状印刷の生産が可能な複合型工場の新設を行い生産体制の拡充を行うことで収益基盤の強化を行ってまいりました。

その一方で、「モノづくりからコトづくり」をテーマに自社製作のディスプレイ資材を活用したイベント企画の受注・消費者に味覚を伝えるインスタプロモーションの提案・人体への安全性に考慮した非フッ素耐油紙を利用した食品包材の提案等、印刷物の生産にとどまらない新事業の開発の推進に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、10,985百万円（前年同四半期比804百万円増）となりました。また、営業利益は、662百万円（前年同四半期比52百万円増）、経常利益は680百万円（前年同四半期比68百万円増）となり、四半期純利益は、428百万円（前年同四半期比57百万円増）とそれぞれ増収増益となりました。

なお、当社グループの利益は、第1四半期は年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の大量受注により売上が拡大することにより増加、第3四半期・第4四半期は年賀状印刷事業は固定費のみが発生することにより、売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

(商業印刷事業)

商業印刷事業においては、既存顧客の広告費削減による影響はあったものの、受注シェアの向上や本州において新規大口顧客のレギュラーチラシ受注の獲得等があったことにより、当事業の売上高は5,207百万円（前年同四半期比110百万円増）となりました。

利益につきましては、利幅の薄い折込売上の受注が減少した一方で、印刷売上の割合が高まったことにより、営業利益は3百万円（前年同四半期の営業損失は79百万円）となりました。

(年賀状印刷事業)

年賀状印刷事業においては、効果的な販促活動により大口顧客からの受注が堅調に推移したことで取扱い件数が増加（前年同期比117%）し、当事業の売上高は5,753百万円（前年同四半期比694百万円増）となりました。

利益につきましては、営業利益は856百万円（前年同四半期比5百万円増）となりました。

(その他)

その他においては、北海道内の2店舗のプリントハウスにおいて、DPE、オンデマンドプリント等の商品・サービスの提供を行った結果、売上高は24百万円（前年同四半期比0百万円減）、営業損失は6百万円（前年同四半期の営業損失は6百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は12,136百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,473百万円増加しました。これは主に現金及び預金が1,674百万円、年賀状印刷事業の売上に係る受取手形及び売掛金が1,051百万円増加したこと、伊勢原工場取得に伴い建物及び構築物が372百万円、土地が149百万円増加したこと等によるものであります。

負債合計は9,607百万円となり前連結会計年度末に比べ4,025百万円増加しました。これは主に年賀状印刷事業の仕入に伴う支払手形及び買掛金が2,049百万円、長期借入金が1,185百万円、未払法人税等が218百万円増加したこと等によるものであります。

純資産合計は2,528百万円となり前連結会計年度末に比べ448百万円増加しました。これは主に利益剰余金が403百万円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は2,878百万円となり、前連結会計年度末に比べ552百万円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,279百万円（前年同四半期は1,689百万円の収入）となりました。これは主に売上債権の増加が1,051百万円あったこと等により資金が減少したのに対して、仕入債務の増加が2,049百万円、税金等調整前四半期純利益が675百万円、減価償却費が198百万円あったこと等により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は894百万円（前年同四半期は314百万円の支出）となりました。これは主に有形・無形固定資産の取得による支出が894百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,289百万円（前年同四半期は296百万円の支出）となりました。これは長期借入れによる収入が1,900百万円あったことにより資金が増加したことに対し、長期借入金の返済による支出が565百万円あったこと等により資金が減少したことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループでは当第2四半期連結累計期間における研究開発活動として、連結子会社である味香り戦略研究所と共に、味覚センサーを活用したデータ分析をすすめ、味の測定・解析・比較を中心とした研究活動により、測定の基準となるデータベースの作成などを実施しており、これらは商業印刷事業における販売促進支援活動及び取引先に対する提供情報として活用しております。

以上の活動により、商業印刷事業において、当第2四半期連結累計期間における研究開発費は0百万円となりました。なお、年賀状印刷事業及びその他の事業においては特記すべき事項はありません。